



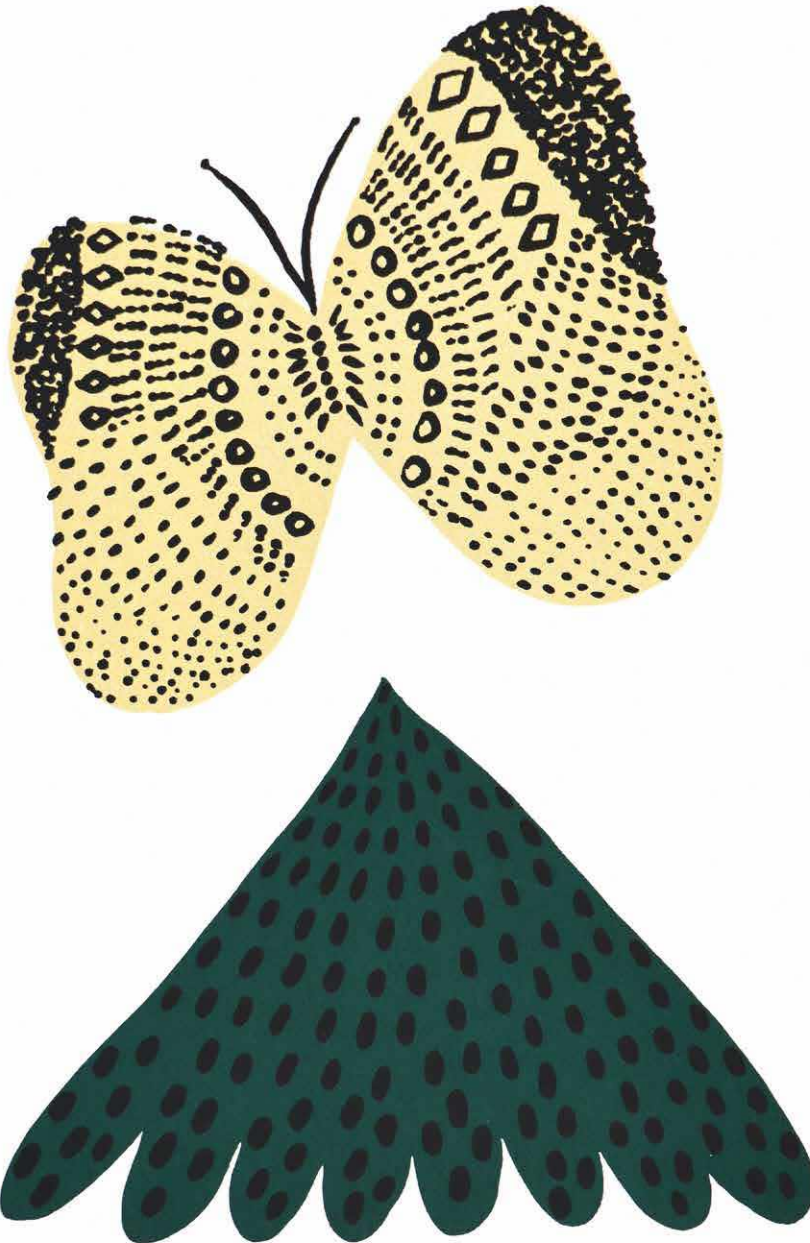
みなさんの暮らしと
つながっています。

Vol.76

令和7年(2025年)

2月1日発行

はまだ 議会だより



7.p.1'2 8/15 2024



12月定例会議

今回はこれがポイント！

総額4,601万円の補正予算を可決

12月定例会議では、市長提出議案28件、議会提出議案2件について審議しました。浜田市子ども医療費助成条例と浜田市国民健康保険診療所条例の改正については、このページと次のページのトピックスをご覧ください。指定管理者の指定については、浜田市世界こども美術館創作活動館および浜田市立石正美術館など7件の提案がありました。また、市道7路線の廃止、市道8路線の認定は、主に山陰本線浜田構内君市踏切移設拡幅工事に伴うものです。

令和6年度浜田市一般会計補正予算（第5号）については、民間事業者が行う介護施設の整備に対する支援や、美又温泉国民保養センター再整備に伴うデジタル関連設備の追加により必要となった設計業務などが計上され、令和6年度浜田市一般会計補正予算（第6号）では、給与改定および人事異動などに伴う人件費などの調整に係る経費が計上されました。各委員会や本会議で慎重に審議した結果、12月定例会議に提出された全ての議案を可決しました。

トピックス

浜田市の子ども医療費助成が 拡充されます

子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律の施行によって、令和7年度から、島根県が子ども医療費に関する補助金を創設することになりました。それに伴って、浜田市においては、高校生年齢の方々（以下「高校生」）まで、通院や入院に係る医療費助成が拡充されます。

浜田市は、子どもの疾病の早期発見・早期治療の促進、健全な育成、安心して産み育てることができ環境づくりを目的として、浜田市子ども医療費助成制度を平成17年に設けました。この間、市議会でも拡充を求める声が上ががり、徐々に拡充されてきましたが、高校生までは財源などの問題から実現に至っていませんでした。

改正前

対象者	医療区分	自己負担限度額 (負担割合)
未就学児	入院	なし
	通院	なし
	薬局等	なし
小学生	入院	2,000円 (1割)
	通院	1,000円 (1割)
	薬局等	なし
中学生・高校生	入院	2,000円 (3割)
	通院	1,000円 (3割)
	薬局等	なし

改正後

対象者	医療区分	自己負担限度額 (負担割合)
未就学児・小学生・中学生	入院	なし
	通院	なし
	薬局等	なし
高校生	入院	なし
	通院	1,000円 (3割)
	薬局等	なし

問 所得制限はありますか？
この度拡充された部分についても、これまで同様に所得制限はありません。

答 どの病院でも適用されますか？
島根県内と中国地方の一部の医療機関などで適用可能です。
(適用できない場合には、払い戻し手続きにより医療費を助成します。)

浜田市国民健康保険診療所の 診療日、診療時間が変わります

政府が掲げる働き方改革により医師の働き方を見直すことで持続可能な医療提供体制を維持していくため、市内の国民健康保険診療所において診療日と診療時間を変更することになりました。また、令和4年4月から休止していた波佐診療所小国出張所を閉所することになりました。これらに伴い、浜田市国民健康保険診療所条例の一部を改正することとなりました。

なお、改正後の条例は、令和7年4月1日から施行されます。

また、診療日と診療時間は、以下の表のとおり変更となります。



浜田市国民健康保険あさひ診療所

問 利用者や医師会と、診療日や診療時間の変更について協議などされましたか？

答 土曜日を利用されている患者については、すでに把握や洗い出しを行っており、平日への移行などの対応を始めています。

まだお話を伺っていない患者に対しても、今後、受診日変更などのお願いを行います。

令和7年3月までのところで、医師会等関係機関に対しても周知を図ります。

現行の診療日

名 称	診 療 日	診 療 時 間
浜田市国民健康保険大麻診療所	第2・4土曜日	午前9時～正午
浜田市国民健康保険波佐診療所	月曜日～木曜日	午前9時～正午 午後2時～午後5時
	金曜日 第1・3土曜日	午前9時～正午
浜田市国民健康保険あさひ診療所 浜田市国民健康保険弥栄診療所	月曜日～木曜日	午前9時～正午 午後2時～午後5時
	金曜日 第2・4土曜日	午前9時～正午

改正後の診療日

名 称	診 療 日	診 療 時 間
浜田市国民健康保険大麻診療所	第1・3金曜日	午後2時～午後5時
浜田市国民健康保険波佐診療所	月曜日～木曜日	午前9時～正午 午後2時～午後5時
	金曜日	午前9時～正午
浜田市国民健康保険あさひ診療所 浜田市国民健康保険弥栄診療所	月曜日～木曜日 第1・3金曜日	午前9時～正午 午後2時～午後5時
	第2・4・5金曜日	午前9時～正午



議案等の 賛否の公開

12月定例会議で賛否が分かれた議案はありませんでした。各議員の賛否、陳情審査結果などの詳細は、市議会ホームページをご覧ください。

令和6年12月 ● 定例会議 ● 市長提出議案28件 議会提出議案2件 陳情2件



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

浜田市議会はSDGs(持続可能な開発目標)を推進しています。
質問内容をSDGsの17のゴールで分類しています。



市政を問う

19人が
個人一般
質問

こちらから動画をご覧ください。



すべての人に健康と福祉を

認知症と軽度認知障害の理解促進を

- ・ 避難所開設・運営支援について
- ・ 地区タイムライン作成推進について
- ・ 軽度認知障害ハンドブックの活用について
- ・ 行方不明者発見のためのGPS導入について
- ・ その他の質問項目

【A】市民への認知症理解のための学習会を開催している。その中で人間らしさと優しさに基づく「ユマニチユード」についても紹介を進める。



柳楽 真智子

学校給食費の負担軽減に取組めないか

- ・ 投票支援の取組
- ・ 生活困窮者とひきこもり支援
- ・ その他の質問項目

【A】学校給食費の負担軽減について、国の無償化への動きや市の取組は、令和5年12月に閣議決定された「こども未来戦略」で、無償化への具体的方策を検討すると明記されていたが、全国調査後の動きがない。無償化を実施する自治体は増加しているが取りやめた例もあり、県市長会でも大きなテーマとなっている。自治体の財政力により、格差が生じることは望ましくなく、仮に無償化を実施すると浜田市では2億円の恒久財源が必要となるため、全国一律の制度となるよう国に引き続き要望していく。



佐々木 豊治



質の高い教育をみんなに

歴史や伝統文化の研究推進へ学芸員増を

- ・ トイレカールの導入提案
- ・ 特定外来生物の発見とその対応について
- ・ その他の質問項目

【A】石見神楽伝承検討委員会からの提言書にも調査研究や専門職員の配置などの検討は必要との意見があったので、体制整備について検討する。

【Q】複合施設として建替を検討中の浜田郷土資料館は博物館機能を有する生涯学習施設と考えるか？

【A】その通りと考える。



大谷 学

安全な水とトイレを世界中に

水道事業の現状と将来



川上 幾雄

- Q** 水道事業の経営状況を損益で伺う。
- A** 簡易水道事業を統合し料金改定を実施した当時は効果が出ていたが、令和5年度で1億4千万円と収益は減少している。
- Q** 今後必要とされる耐震化・施設の更新費用について伺う。
- A** 費用については、市の計画によると年平均約9億円の投資規模が必要。
- Q** 運営上損益が拮抗する時期を伺う。
- A** 急激な物価高騰の影響もあり、令和7年度には赤字になると見込まれる。
- Q** 赤字への対応を伺う。
- A** 多様な影響や施設更新費などで経営が厳しくなる。水の安定供給確保のため、料金を適切に見直す料金改定を水道料金審議会へ諮問した。

働きがいも経済成長も

浜田市における地方創生とは何か



沖田 真治

- Q** 本市の特性を活かした産業は農林水産業であると考え、特性を生かすための支援策は？
- A** 小規模事業者が多く、人手不足気味で手が回らない販路開拓と新商品開発を主に支援している。
- Q** 近年、新規創業の件数が順調に推移している。今後の支援策と課題について伺う。
- A** 現状の支援策は継続していく。課題は多くの雇用につながる新しいこと、雇用の創出につながる新たな支援策も検討する。
- Q** 域内経済の促進を図るBUYはまた運動に地域内マナー循環の見える化を加えた啓発活動することもある必要ではないか？
- A** BUYはまだ運動の取組の一環でデジタル通貨の導入と併せ検討する。

高速交通時代を生かした地域振興策を進めよ



芦谷 英夫

- Q** 浜田道通行量はコロナ禍前水準に戻ったか。
- A** 浜田道の1日平均が平成30年度で5,278台、令和5年度で4,816台となり戻っていない。
- Q** 浜田道サービシア売店や喫茶の再開は？
- A** サービシアエリアの食事や買い物は高速道利用の魅力の一つであり、再開への課題など相談したい。
- Q** 利用促進に向け無料化や割引制度の拡充など島根県西部高速道路利用促進協議会会長としてどう働きかけるのか。
- A** 無料化の働きかけを行ったが財源問題がある。益田道開通にあわせ割引制度拡充など利用促進に努めたい。
- (その他の質問項目)
- ・石見神楽伝承内容検討事業 他

非正規公務員の待遇改善と雇用の安定は急務



小川 稔宏

- Q** 雇い止めの実態および正規職員と会計年度任用職員の人数について。
- A** 雇い止めとの声は聞いていない。令和6年4月で639人と640人。
- Q** 賃金や手当の額、休暇の種類や日数など非正規の待遇改善は自治体の裁量でできるのでは。
- A** できると考えている。
- Q** 地域維持のために自治体が率先して非正規の賃金を上げ、非正規雇用をなくすよう努力し民間の手本となるべきでは。
- A** 非正規が増えたことが少子化の背景の一つで待遇改善は重要。大手のパートから正社員化の流れを作ることが必要。
- (その他の質問項目)
- ・更生支援 再犯防止
 - ・カスハラ防止
 - ・ケアラー支援など 他



産業と技術革新の基盤をつくろう

「美又温泉」「旭温泉」誘客の対策は

Q 温泉総選挙2024で美又温泉は「美肌部門」、旭温泉は「歴史・文化部門」とともに1位を受賞。各温泉の入り込み客を増やす企画やPRは。

A 美又温泉は「美肌部門」2年連続第1位を獲得。この結果を生かすため、県と連携した取組の「美肌観光推進事業」において、美肌をキーワードとした地域資源の掘り起こし、旅行関連商品の開発、美又温泉のPR動画配信イベントなどを行う。

A 旭温泉は「歴史・文化部門」第1位を受けて、各施設の石見神楽を紹介するコーナーや旭町石見神楽保存会と連携し、神楽衣装や面の展示を行い、伝統芸能である石見神楽のPRを行い、誘客促進に取組む。



永見 利久

デジタル技術の活用で、市民サービス向上を



様々な機能が実装された、佐賀市公式スーパーアプリのトップ画面

Q デジタル技術の活用による、行政サービスの効率化や利便性向上を。

A 来年度に専門部署を設置。人員補強と合わせ、一億円を確保する。

Q 子育て支援やゴミ分別のアプリは各々独立しているため、一元的な情報収集が難しい。スーパーアプリ（複数の機能やサービスを統合したアプリ）の導入で情報発信インフラの整備を。

A スマホの活用は重要。検討する。

Q まちづくりセンターのオンライン予約やスマートロックの導入を。

A 検討する。



三浦 大紀



人や国の不平等をなくそう

障がい者の休日活動の送迎は？

Q 障がい者が休日を通ぐす「日中一時預り事業所」などへの移動について、浜田市では事業者が送迎対応をすることができないため、障がい者の保護者が送迎しており中山間地域では厳しいとの声を聞く。県内では、すでに事業所が独自に送迎できている地域があり、昨年一般質問で送迎加算対応するべきとお願いしたが、その後の考えは。

A 日中一時支援事業における送迎加算について、事業所に意見を伺ったところ、加算の新設があれば送迎を担っていききたいとの意見があった。来年度に向け、加算を新設したいと考えている。予算の確保や要綱の改正に向け、手続きを進める。



串崎 利行



住み続けられるまちづくりを

市道における整備未対応の対策は

Q 市内の市道における整備未対応箇所（現地確認を産業建設委員会として実施した。特に危険な箇所の災害防除事業（落石対策）を問う。市道石見北61号線（佐野町地内）は何年頃から方塊ブロックを設置しているか。

A 平成22年頃に設置している。崩落柵をいつ設置したのかは不明である。

Q その期間落石などによる事故はなかったのか。

A 現在までに事故の報告はなかった。

Q この市道は広浜鉄道用地であり、相当の観光客が訪れると聞くが年間どの程度か。

A 令和5年度のイベントでは300名弱、ガイドの会の案内では63名の参加で、事故はなかった。



田畑 敬二

住み続けられるまちづくりを

「文化の薫るまち」実現のアプローチ！



川神 裕司

Q 今回石見神楽の保存・伝承に関する提言書が提出された。今回の提言をどう具現化していくのか市長の考え方を伺う。

A 提言では拠点施設を具現化する場合、市民から望まれるよう、検討組織の立上げが必要とある。いずれにしても提言書を尊重し、できることから保存・伝承に向けた取組を進めていきたい。

Q 書店減少による図書館の役割は大きい。地域文化の発信拠点としての今後の図書館像を伺う。

A 読書活動推進のみならず、「つどい」「まなび」「くつろげる」かつ「郷土への愛情を醸成する図書館」を目指していく。

(その他の質問項目)

- ・ 地域創生の推進
- ・ 給食センター統合計画

どうする水産浜田の課題・問題解決対策は



牛尾 昭

Q 瀬戸ヶ島の陸上養殖が進んでいないのでは。

A マルハニチロとの共同で海面・陸上両面の研究をしていて年度末には報告がある。

Q 入船を増やしてほしいとの要請があるが。

A 愛媛・隠岐などで誘致活動をしている。

Q どちらアジが低迷しているが、対策は。

A JFや浜田市水産物ブランド化戦略会議と相談したい。

Q 業界が令和のブランド開発を要望しているが。

A 現行の組織で検討してみたい。

(その他の質問項目)

- ・ 世界こども美術館持続化のために、スターバックスを誘致しては
- ・ 三桜酒造跡地は神楽施設建設の適地では

閉校後の校舎の用途の決定は？



岡本 正友

Q 本年も小中学校の統廃合がすめられた。これまでの合併後の閉校校舎の活用はどのようになっているか。

A 地元団体と協議を重ねながら調整し、最終的にはまちづくりセンターや分館、交流施設、集会所施設となっており、施設は現在も活用されている。

Q 閉校後（雲雀丘小学校）の旧校舎施設の利用は。

A 校地、体育館などを地区住民が利用できる形で存続してほしいとの陳情から、使用要綱を定め、体育館と校舎一部などが利用されている。

Q 施設の最終用途の要望はどのようになるか。

A これまでと同じように地元団体がまとめた要望を協議し、施設の用途を決定することになる。

市街地のグランドデザイン（未来像）が重要



西田 清久

Q 三桜酒造跡地、NTT社宅跡地、ホテル改装君市踏切改良など浜田駅周辺は市民が注目している。人の流れと滞在がより効果的となるグランドデザインを示す必要は。

A コンサル会社においてにぎわい創出の調査中で、結果を踏まえ市民に示す。

Q 市街地を俯瞰した中で長い商店街や浜田川、県大、道の駅、お魚市場などの浜田の特性と若い人たちの意見や要望を活かしていく考えは。

A これまでも若い人たちのニーズは伺っており、今後検討し考えていく。

(その他の質問項目)

- ・ 折居駅の活用について
- ・ 中山間地域（里山）の魅力の再発見と生かし方について 他

住み続けられるまちづくりを

災害情報の収集・共有システムの構築を

（その他の質問項目）
・「氏名等公表」について
・避難所サポーターについて

A 被害情報を収集・共有するシステムや被害者情報、被災者情報を収集・管理するシステムについては、構築に向けた検討を進めている。

Q 昨年度の一般質問において伺った、次期防災システムの整備に併せてクラウドを生かした「防災DX」の導入検討は行われたのか。

A 業務委託をしていた実施設計が9月末に完了し、現在は、来年度予定の入札に向けた仕様書の調整のため設計内容を精査している。

Q 次期防災情報システムの整備における現在の進捗状況は。



村木 勝也

市の花「つつじ」、三隅公園の管理と整備は

な植え替えなどにも対応していく。

A 公園は直営で管理しているが、植栽の手入れなど専門技術が必要とする業務は、造園業者に委託。剪定による美観維持や成長を促すための施肥を行っている。病虫害の発生や鳥獣被害の駆除にも努めており、今後は計画的

Q 三隅公園の5万本の「つつじ」、年々色とりどりの艶やかさが薄くなっているが、管理や整備は適切か。

A 地域資源を活用した整備や観光資源と連携したもの、市民生活の質向上、災害時の避難場所として防災機能強化などの考え方に基づいて整備している。

Q 市の公園・広場の整備に関する考え方は。



布施 賢司

平和と公正をすべての人に

闇バイト特殊詐欺から市民を守れ

・美又温泉、旭温泉の更なる観光誘客について
・消防署における働き方改革について

A 若年層にはSNSや出前講座。高齢者には防災メールや特殊詐欺撃退機器の配布など、啓発を実施・検討している。

Q 世代別の効果的な啓発方法は検討しているか？

A 全世代に行っていないが、事件発生時には防災メール・市ホームページで注意喚起を行っている。

Q 闇バイト・特殊詐欺の被害状況は？



肥後 孝俊

こどもまんなか社会のために

（その他の質問項目）
・オーガニックビレッジの推進

A 今後の課題として考えていく。

Q 子ども計画を策定するのに、子どものことについて協議する「子ども子育て会議」を充実した議論の場にする必要があるのでは？

A 市民団体や議会議員連盟から要望があった。条例の意義は理解するが、まずは職員や市民が子どもの権利について理解を深める取組から始めていく必要があると考える。

Q 浜田市でも、子どもの権利を守るために大人が果たすべき役割を明確にした子どもの権利条例を策定する必要があると考えるが、市としての考えは？



村武 まゆみ

委員会

代表質問

【委員会代表質問とは】

浜田市議会において令和4年6月から導入しました。個人一般質問と異なり、委員会を代表する議員が委員会の総意として質問します。3つの常任委員会の専門性を生かし、委員会の行政視察や調査・研究を踏まえた、多角的な視点からの質問ができ、より厚みのある政策提案につながることを期待されます。

市内の建設業界が抱える問題点と課題

質問者 川上 幾雄

産業建設委員会

- Q** 市内建設業の現状について市の受け止めは。
- A** 公共工事が減少傾向にある中で経営は大変厳しい状況と認識している。
- Q** 全体として工事そのものが減っているとの意見があるが、市の受け止めは。
- A** 発注件数の減少は認識している。そのため、必要な事業量の確保に努めたいと考えている。
- Q** 地域要望をどのように処理しているのか。
- A** 緊急性や交通量の多さ、効果の高い箇所を優先して対応している。
- Q** 建設業労働者の現状について市の受け止めは。
- A** 全国的な減少や高齢化は認識しており、多様な方策での担い手確保や次世代への技術継承が喫緊の課題と考えている。
- Q** 課題を解決するには建設業者だけでは難しいと思う。市として対策を検討しているのか。
- A** 働き方改革が推進されるよう、週休二日制を反映した適切な経費計上や
- Q** 工期設定に努める。
- Q** 災害防除工事の発注状況は。
- A** 工事規模によるが、平成27年から10年間で27箇所行っている。
- Q** 災害防除工事の必要箇所を網羅しているか。
- A** 全て網羅できているとは考えていない。パトロール等で対応必要箇所の把握に努めている。
- Q** 平成28年度以降の未対応危険箇所推移は。
- A** 風水害などの影響で増加しており、現在、要対応箇所が117、経過観察箇所68と合計185箇所となっている。
- Q** 増加する一方だが対応策は。
- A** 整備が追い付かない状況だ。今後、第一段階で危険な石の対策工事、第二段階で残りの対策工事を行うなど、段階的に対応することで安全度を上げていくことも検討したい。抜本的な対策工事については、経済的かつ高い効果が発揮できる工法の検討を行う。

「ぎかいポスト」に寄せられた意見への回答

▶ご意見

コミュニティバスをもっと必要なところへまわしてほしい。

▶対応経過及び結果

現在、公共交通が行き渡っていない中山間地域において、生活路線バスや予約型乗合タクシー事業、地区まちづくり推進委員会が主体となって運行できる「あいのりタクシー等運行支援事業」を行っています。市街地における運行実績がないことも課題であると捉えています。当委員会として取組課題に取り上げ、ご意見の趣旨を提言書に盛り込み、執行部に提言します。
(総務文教委員会)

▶ご意見

浜田市に若い方が住んで働いてくれる様な取り組みをしてほしい。本当に地元から人がいなくなってしまう。地元企業も大事だが、働く場所・ジャンルが少ない。

▶対応経過及び結果

浜田市ではスタートアップに関する支援、また生活支援についても整備されています。必要な情報が届きやすいよう委員会から働きかけて参ります。企業誘致については、なかなか結果はすぐに出ませんが、浜田市は若者に定住してもらえるような施策に取り組んでいます。多くの課題はありますが、今後も多くの方に浜田に来ていただき住みたいと思っていただけるような取組を進めていけるよう、委員会として働きかけて参ります。
(産業建設委員会)

各まちづくりセンターに、意見・要望用紙を「ぎかいポスト」とともに設置しておりますのでご投函ください。ホームページからも受け付けております。

紙面の都合上、一部の意見と回答を掲載しています。全ての意見と回答は市議会ホームページに掲載しています。





第4回 はまだ市民一日議会 実施報告



令和6年10月20日に第4回はまだ市民一日議会を開催し、11人の方に参加いただきました。

高校生や大学生からは、浜田市で若者が楽しめる場所づくりや若者のやりたいことが実現できるまちについて、子育て世代の方からは、当事者視点で市の情報発信をしていきたいとの意見がありました。また、今回は県外から移住してきた方の発表もあり、移住者の目線で浜田の魅力について聞くことができ、幅広い内容の市民一日議会だったと感じました。そして今回は特に、終了後に発表者同士で声をかけ合い、交流されていた光景が印象的でした。

今回いただいた提案や意見については、3つの常任委員会などで協議しました。今後の議会において、さまざまな形で活用させていただきます。

当日会場にお越しいただけなかった方も、YouTubeで動画を見ていただければ幸いです。

今後も開催継続に向けて、皆さんに議会をより身近に感じて親しんでいただけるような取組内容の充実に努めていきたいと思います。

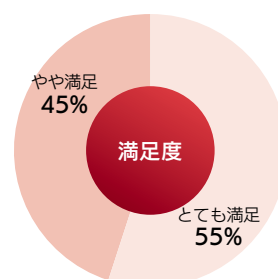
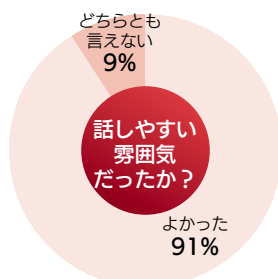
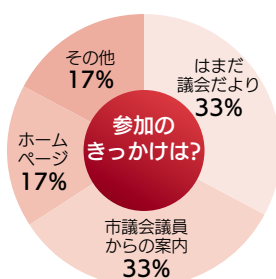
発表者をはじめ、運営にご協力いただいた関係者の皆さんに紙面を借りてお礼申し上げます。



当日の動画は
こちらから



発表者からの声



さまざまな ご提案 ありがとうございました

※議会の対応は各欄の下段に記載しています

増えている
不登校児童への
対応として
メタバースを利用
した拠点を
作りたい。

反田 亮さん

不登校支援は様々な方法が必要だと考えるので、今後調査研究していきたい。

ママたちの力で
子育て支援の
情報発信を
していきたい。

稲澤 鈴夏さん

子育て中の方々がどんなサービスを求めているのか、改めて話をお聞かせいただきたい。

空き地を利用して、
若者が楽しめる
場所を作って
ほしい。

中田 歩実さん

委員が一般質問で取り上げた。今後も空きビル、空き地が市民にとって有効活用されるよう働きかける。

学校給食の塩の
請願について、
子どもたちや
保護者の意見を
聞いてほしい。

棕本 浩二さん

この請願は議会で採択となったものだが、発言については重要な意見であると思う。

移住者の視点で
魅力ある日脚・
長浜地区の
イラストMAPを
作りたい。

岩本 陽子さん

観光交流課や教育委員会、まちづくり委員会などに情報提供する。

5億円会議を
創設し、若者が
自信を持って
活躍できる街を
目指してほしい。

高松 頌司さん

若者などの発想で目的を実現させる改革に挑戦する気持ちは受け止める。さらに若者の声を反映できるよう調査研究する。

浜田市世界
こども美術館に
スターバックス
コーヒーを誘致し、
施設の持続化を
望む。

宮木 竜一さん

公共施設における収益事業、民間企業との連携による施設の複合化などを調査研究していく。

若者が輝ける
社会を作るために、
学生起業家を
育ててほしい。

宅間 優希さん

商工会議所などと連携して、様々な補助金など企業やものづくりに対する支援を行っている。情報が届きやすくなるよう働きかける。

持続可能な
地域づくりに
向けて
「浜田地域循環
共生協議会」の
支援を。

矢口 伸二さん

個人一般質問で取り上げた。今後、市も応援できるよう働きかける。

折居駅の
駅舎を使って
人が訪れる
場所にしたい。

岩藤 由起恵さん

個人一般質問で取り上げた。今後活動できるよう市にも働きかける。

学生の
“やりたいこと”が
叶えられる
場がほしい。

三橋 巧弥さん

若者支援の仕組みづくり、学生への伴走サポートの充実に向けて働きかける。

石州和紙は、江戸時代に藩の専売品として栄え、昭和44年には国の重要無形文化財に指定されています。観光資源として新たな価値を創造し、継承していくその取組の中では、技術の保存・記録、後継者育成のための環境整備、原材料の安定供給体制の確立といった基盤強化に加え、石州和紙の歴史や意義を学ぶ機会づくりも重要な課題とされています。

市議会は、この伝統産業を「ものづくり」ではなく、地域が共有すべき重要な文化財としてとらえています。

(インタビュー：川神 裕司、西田 清久)

受け継がれる伝統、輝く未来へ — 石州和紙の挑戦 —

時代とともに漉かれた重み

— 石州半紙の歴史とその特徴は？ —

西田 石州和紙は江戸時代、藩の専売品として栄え、昭和44年には国の重要無形文化財に指定されました。特に外国人観光客からの関心が高い「和紙づくり体験」は観光資源で、この伝統工芸は広くその魅力を発信する重要な文化資産だと思います。また石州和紙は、地元産の原材料を100%使用しており、



その強度と耐久性は世界からも評価されています。地元の自然環境が育む独特な紙質は、文化財の修復や美術品の保存に最適です。この石州和紙がなければ、多くの文化財の修復が成り立たないと言われるほどです。

— 生産者が減少する中で、の想いや取組は？ —

西田 700年以上の歴史を持つ石州和紙は、今大きな転換期を迎えています。1940年代には30軒を数えた事業所も、需要の減少とともに現在ではわずか4軒となり、職人の高齢化も進んでいます。このような中、伝統技術の継承が危ぶまれています。行政支援もあつて原材料のノウハウの生産、供給体制もでき、伝統的手漉き和紙の技術も見直されました。

原材料のコウゾ



伝統を受け継ぐ者たちの挑戦

石州半紙技術者会	会 長	西田 誠吉さん
石州和紙協同組合	専務理事	川平 勇雄さん
石州和紙会館	館 長	竹中 博文さん

——和紙産業が直面している課題は？

西田 後継者不足が最大の課題です。和紙の製造には高度な技術が必要で、一朝一夕には習得できません。また、賃金アップの問題や独立時における経済支援も大きな課題です。そして紙漉き道具など産業原材料の確保も年々難しくなっており、継続に大きな影響を与えています。

——後継者問題にどのように対処していますか？

川平 後継者不足は、我々の文化遺産を保護する上で大きな課題です。市としては、若者が伝統



若い世代にこの伝統を広め、興味を持ってもらう取組を行っています。

——和紙産業の未来についてどのような考えますか？

川平 伝統を守りながら、時代に合わせて進化していく必要があります。例えば、環境に優

工芸に興味を持ち、参入しやすい環境を整備するため、教育プログラムへの支援やスタートアップのため、地域の高等学校や大学と連携し、石州和紙製造の技術をカリキュラムに取り入れることで、

——石州和紙を広く普及させる新たな戦略はありますか？

新しい紙製品としての価値を高めたり、アートやファッションとのコラボレーションを進めていくことが重要です。



川平 デジタル技術の活用により、石州和紙の魅力在国内外にアピールしています。オンラインでの販売やデジタルマーケティングを強化し、特に海外市場を対象としたプロモーションを行っています。和紙の技術を活用した新しい製品開発にも力を入れており、現代のライフスタイルに合わせた和紙製品を提供することで、より多くの人々に日本の和紙文化を体験してもらうことを目指しています。

竹中 石州和紙会館では、石州半紙技術者会と石州和紙協同組合それぞれが円滑に運営できるよう陳列や体験できる環境を整えています。また、来客に対しては、再訪問していただくようサービスに努めています。



くの外国人が訪れています。今年も一度のツアーが15人単位で、のべ350人が職人さんに会いたいと言って来訪されています。和紙の購入単価も大きく、今後は、宿泊まで実現することが大きな目標です。

希望の光となる石州和紙

——石州和紙は、かけがえのない文化遺産であると同時に、地域の未来を照らす希望の光でもあります。この貴重な伝統を次世代へ確実に引き継ぐため、挑戦は続いていきます。地域全体の力を結集し、石州和紙の輝きを未来へとつなぐ。そんな明るい未来を目指して一

歩ずつ歩みが求められています。——この対談は、石州和紙の価値と未来を共有する重要な一歩となりました。伝統と革新が交わる中で、地域一丸となり、この文化を守り育ていく姿勢が求められています。

石州和紙会館のホームページはこちら。



中:西田 誠吉 (にしだ せいぎ) さん
石州半紙技術者会会長

右:川平 勇雄 (かわひら いさお) さん
石州和紙協同組合専務理事

左:竹中 博文 (たけなか ひろふみ) さん
石州和紙会館館長

レポート



総務文教委員会

より利用しやすい 地域交通を目指して

今までの議会だよりでも報告をしてきましたが、市民の皆様が利用しやすい地域交通について調査研究を重ねています。

その中で、10月に、AIデマンド配車システムを利用した新しい乗合交通「チョイソコ」について岡山県真庭市に視察に行きました。「チョイソコ」は利用者のニーズを捉えた予約システムとなっており、利便性に優れたシステムでした。浜田市で運行している乗合交通にも参考にできる部分もありました。今後の活動や提言に反映したいと考えています。



真庭市のチョイソコ車両

福祉環境委員会

医療センターの現状と 課題をヒアリング

浜田圏域では一般病床を備えた病院が浜田医療センターと済生会江津総合病院のみで、本来の役割である急性期治療に特化することが難しい状況です。人口減少とともに患者数も減り、病院経営（中でも急性期医療に係る経費）や医療従事者の確保にも影響が及んでいます。総合診療医がいることによる好循環が期待されますが、総合診療医を育成する指導医の確保にも苦慮されています。また、看護学校においても学生の確保や地元定着のため、さまざまな取組を進められていますが、人材確保が厳しい状況にあります。医療従事者に限らず移住・定住には金銭的な支援だけに限らず、魅力ある地域であることも選ばれる大きな要因であることから、市としての更なる連携と、支援の在り方について検討が必要と感じました。

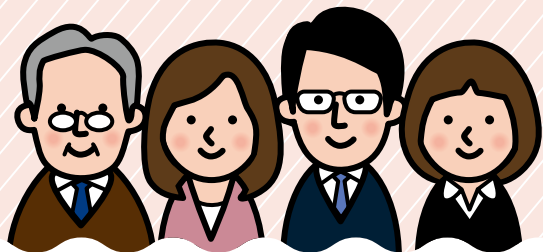


産業建設委員会

危険箇所対応を委員会代表質問で問う

委員会として災害防除の現状を把握するため、去る11月8日及び13日に市内の未対応危険箇所を、都市建設部、支所産業建設課の案内で視察しました。視察箇所は浜田・金城・旭・弥栄・三隅の各地域6箇所の30箇所でしたが、その中には平成8年の調査で要対応箇所とされたが仮設防護で対応しているものもありました。未だ災害が防除されているとはいえ、市内には隠された危険箇所が多数あるのではないかと危機感を覚え、代表質問で危険性や災害防除の必要性をふまえ質疑するとともに対応を求め、執行部からは早期の調査・検討の後、予算を考慮して実施するとの答弁を得ました。





委員会活動

議会運営委員会

オンラインによる請願・陳情の提出が可能に

議会に係る手続きのオンライン化を進めるにあたり、請願・陳情の取扱いについて、さまざまな角度から協議を進めてきました。

提出方法については、これまで持参か郵送のみ受け付けていましたが、多様な住民の議会に関わる機会を広げ、利便性の向上を図るため、新たにオンライン申請として「しまね電子申請サービス」による提出ができるようにしました。また、持参・郵送・オンラインといった提出方法の違いによらず、すべての請願・陳情を受け付け、審査することとしました。（「浜田市議会陳情書取扱基準」に該当した陳情書は審査せず、議員への配布のみとなります。）

審査終了後の審査結果については、提出者の希望により、郵送または電子メールのどちらかで通知させていただきます。

今後も円滑な議会運営を行うために必要な事項について、チーム議会として協議・検討を進めてまいります。

議会改革推進特別委員会

図書館レファレンス機能の活用

議会改革の検討項目のうち「議会図書室の活用」について「シェアする議会本棚」に続き今回は「市立図書館のレファレンス機能の活用」について報告します。

図書館には資料や情報を求めている人と適切な情報源を図書館員が手助けをして結びつける「レファレンス」というサービスがあります。

浜田市立中央図書館と連携し「団体貸出制度」を活用し、議会図書室とつなぐ仕組みと運用について検討してきました。

①貸出希望書籍の分野照会⇒②図書館へ選書依頼⇒③議会事務局が図書館で書籍借受け⇒④書籍配置後議員へ通知⇒⑤書籍配置期間後返却。

年4回、議会図書室に市立図書館の書籍を配架することで議員の情報収集力向上と議会機能の強化を図ります。

議会広報広聴委員会

チーム浜田市議会で取組んでいる「はまだ議会だより」

毎回、議会だよりをお読みいただきありがとうございます。

議会で取り上げた個人一般質問についてのページ「市政を問う」

は各議員が原稿を書きます。「委員会活動レポート」では各委

員会が活動報告の記事を担当しています。最終ページの「議長からのメッセージ」では、議長の活動や思いをお届けしています。それ以外のほとんどのページは議会広報広聴委員が原稿を執筆しています。印刷会社から校正データが届いたら、議会広報広聴委員会で入念な校正作業を重ね、完成したものが皆様の元へ届けられます。

また、はまだ議会だよりが無料アプリのマチイロで配信を開始しました。

マチイロ（運営：株式会社マチイロ／福岡市）をインストールすることで、お手持ちのタブレットやスマートフォンでもはまだ議会だよりが読めるようになりました。発行時にはプッシュ通知でお知らせが届きます。はまだ議会だよりminiや広報はまだも読めます。アプリ詳細は二次元コードからご覧ください。



マチイロ

ダウンロードは
こちらより





議長からのメッセージ

議長の笹田です。今回は1人の少年の声が議員を動かし、議会を動かし、浜田市の施策に反映された話をご紹介します。

令和2年12月に議員が一般質問で当時小学6年生の方から頂いた「松原町付近に子どもがボールを使って遊べる遊び場を作してほしい」との手紙を取り上げたことが最初でした。

中学生になったその方は令和3年7月に開催した「はまだ市民一日議会」で「旧すくすく跡地をボールを使える遊び場に」というテーマで公園の必要性を訴えました。

それを聞いた議員が紹介議員になり、令和4年3月に同級生や地区まちづくり推進委員会とともに請願を提出され、議会は全会一致で採択しました。

その後、市の担当課で必要性が考慮され、身近な公園整備基本方針を策定し、令和5年12月に旧すくすく跡地の公園整備案が示されました。

そしてついに、令和6年11月に「松原公園」の開園式を迎えました。

実現するまでに相当時間がかかり、訴えた本人が当時遊べなかったことは申し訳ないですが、このような熱い要望を受けて開設されたので、近隣の皆さんに愛される公園になることを祈ります。このような市民のご意見を浜田市議会では大切にし、一つでも実現できるよう活動していきます。





3月 定例会議の 予定

- ・2月25日(火) 開会
- ・2月26日(水)～3月3日(月) 一般質問

ぜひ傍聴にお越しください。
※変更になる場合があります。

次号 (Vol.77) は
5月1日発行予定です。

はまだ議会だより miniも 見てね

コチラ



1月1日の34号はご覧いただけましたでしょうか。miniは浜田市議会ホームページにウェブ版として掲載していますのでぜひご覧ください。

次号は3月1日に発行予定です。

表紙について

令和6年12月、フィンランドからレータ・ニエメラさんと島塚絵里さんがこども美術館へいらっしゃいました。

表紙は島塚さんの作品「Lähtö (出発)」。新たな一年のスタートにピッタリと、この作品を選びました。

3月2日まで、同美術館ではアンデパンダン展を開催中です。ぜひお出かけください。

編集委員

委員長		副委員長		委員	
村武	まゆみ	村木	勝也	肥後	孝俊
大谷	孝学	三浦	大紀	沖田	真治
川上	幾雄	上野	幾雄	西田	清久
川神	裕司	上野	清久	川神	裕司

(記 村武 まゆみ)

議会広報広聴委員長を務め1年以上経過しました。議会が何をしているのか(広報)と市民の声を聞くこと(広聴)は議会機能として大変重要です。議会広報広聴委員会は議会の中で常任委員会として位置付けられており、委員は他の3常任委員会と併任して活動をしています。議会だより・miniの編集はまだ市民一日議会や地域井戸端会の実施など日々汗をかいています。ありがたいことに最近では他市議会からの視察も多く、高評価をいただいています。今後も多くの方が市議会へ関心を持つきっかけになるよう、委員みなで力を合わせ頑張っていきます。

あとがき